

広島県リスキリング推進検討協議会の設置について

令和4年4月25日
商工労働局

1 背景

デジタル化の進展により、全国では2030年の時点で事務職を中心に200万人を超える人材余剰が発生する一方、専門技術職では170万人の人材不足が顕在化することが見込まれ、新たなスキルの習得による労働移動が必要との試算がある。

また、コロナ禍において、デジタル化の進展や、社会経済環境の変化が加速しており、円滑な労働移動の重要性はより高まっている。

2 設置目的

デジタル化が進展する中、生産性の向上や新たな価値創造、成長分野での競争力強化に資するリスキリングを推進するとともに、将来の需給ギャップに対応した円滑な労働移動の実現を目指し、習得が必要なスキル、働きながら学ぶ労働環境や雇用管理のあり方、労働市場の流動化に向けた社会システム等の課題などについて、公労使で検討するための協議会を設置する。

3 検討事項

- ・DXの進展により生じる職種ごとの需給ギャップの整理
- ・職種ごとの需給ギャップを踏まえて、能力開発や習得が必要となるスキルの整理
- ・働きながら学ぶために必要な労働環境・雇用管理のあり方の検討（企業内での労働移動の視点）
- ・労働市場の流動化に向けた社会システム等の課題の整理（企業の枠を越えた労働移動の視点）

4 取りまとめ

- ・令和5年7月を目途に、企業の実践の指針及び円滑な労働移動が可能な社会の実現に向けたロードマップを策定
- ・議論の途中経過は、中間報告として取りまとめて公表